



歩行者天国の道路を駆け抜ける「青空スプリントinくずまき」

まちなかの秋 楽しみ方多彩に

9月30日と10月1日の2日間、まちなかエリアでは秋を満喫する多彩なイベントが催され、多くの人で賑わいました。



△そばがきに並ぶ来場者
▷恒例のお菓子まき

くずまきクラフト市

2日間にわたり開催されたくずまきクラフト市 かんづき（同実行委員会主催）には、町内外から作家が集い手しごと作品を販売しました。

実行委員会のメンバーや子どもたちは可愛い衣装のチンドン行列でまちなかを練り歩きイベントをPR。多くの来場者がお気に入りの品を買い求めていました。

まちなか紅葉まつり

10月1日には、JR葛巻駅構内でまちなか紅葉まつり（まちなか活性化協議会主催）が開催され、300食のそばがきが振る舞われたほか、お菓子まきやステージショーなどが催されました。

葛巻高校卒業生の畑周さん（岩手大学1年）が企画した「青空スプリントinくずまき」では大学生らが歩行者天国となった国道を駆け抜け観客を沸かせました。



△買い物客で賑わうクラフト市
▷イベントをPRするチンドン行列

茶番祭

くずまきDMOまちなか販わい創出部会主催のアウトドアイベント「茶番祭」は9月30日に城内小路のさくら公園で開催されました。

雨に見舞われながらも川釣り体験コーナーでは子どもたちが釣りに夢中になり、竹灯ろうのワークショップや焚き火など、来場者は思い思いに野外活動を楽しんでいました。



△川釣りに挑戦する子どもたち
▷竹灯ろう作りのワークショップ



のこぎりを使った伐採体験



薪の火力で炊飯



森の奥から薪を手渡しで運び出す様子



薪で炊いたご飯でカレーを味わう児童



小学生の部優勝のなかよし6人シックスター

町産業振興協議会（会長・鈴木重男町長）主催の第17回「薪・牧・巻・トリプルまきフェスタ」が9月30日、くずまき高原牧場で開催され、町内の林業関係者や小学生ら約200人が参加しました。

開会式で鈴木町長は「子どもから大人まで一緒に楽しみ、森の持つ多面的な機能を生かし、町の魅力を再認識しましょう」とあいさつ。参加者は、土谷川地区の町森林公園で木の伐採体験や薪運び体験

森の恵みに触れる 薪積み選手権開催

午後には第16回全日本薪積み選手権が開催されました。積んだ薪の高さを競う小学生の部には11チームが参加。見事なバランスで147センチを記録したなかよし6人シックスター（葛巻地区森林愛護少年団）が優勝しました。

また、芸術性や安定性などを競う一般の部には6チーム

が参加。テーマ「くずまき」にちなみ、くずまきワインやくずまき鍋など町の魅力を表現した個性的な作品が並びました。審査の結果、町の暮らした特色を安定感のある薪積みで表現した「薪ストーブのある家」を制作した小岩金網株式会社チームが優勝しました。

五日市小学校の松長根大翔さん（6年）は「山から重い薪を運び出すのは大変だったけど、みんなで協力してできた。初めての薪積み選手権は高く積めて楽しかった」と話し、森林の恵みを感じながら楽しむ1日になった様子でした。



一般の部で優勝した小岩金網株式の皆さん

森の機能を生かし楽しむ

第17回・薪・牧・巻・トリプルまきフェスタ



験を行いました。昼食には薪を使用して炊いたご飯とカレーが振る舞われ、作業で汗を流した参加者はおいしそうに味わっていました。